

学校教育目標	夢と希望と輝きをもつ 児童の育成	〔ミッション〕ふるさと原を誇りに思い、生き生きと輝いて21世紀の社会に貢献できるよう、自分で考え自分で行動する子どもを育てる。
		〔ビジョン〕・自由と規律のある学校 ・風通しのよい職場 ・地域を大事にする学校
経営目標に向かうストーリー	☆七尾中校区、本校の研究テーマに共通している「自分の考えを持ち、説明する力の育成」に基づき、表現力の向上を目指した授業づくりを行う。 ☆行事等を通して地域の方々に親しみ、日頃のあいさつや会話等を通して感謝の気持ちを持つことにより、地域貢献への意識を涵養する。	

評価計画				昨年度末	目標値	第2回中間	第3回最終	達成度	評価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標						
①【学習指導】 主体的、意欲的に学ぶ児童を育成し、確かな学力を身につける	◎原小学びのスタイルを確立し、教師の授業力を向上させる	・国語科を中心に筋道を立てて考え、表現する力を高めるための課題発見解決学習を行う ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を進める	・市学力定着状況調査で正答率60%以上の児童の割合【市共通項目】 （4学年以外の児童も市学力定着状況調査と同様のテストを実施） ・「理由をつけて考えを表現することができている」児童評価【校区共通項目】 ・「ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組んでいる」教師評価	—	70% (市は66%)	1月実施			
				94%	90%	88%			
(修正)				—	90%	100%			
②【生徒指導】 自分を大切に、友達を大切に、共に頑張ろうとする心と根気強く取り組む力を育成する	◎児童の自己有用感を高める 【校区共通項目】 より一層健康意識を高め、望ましい生活習慣の定着を図る	・自他の良さを互いに認め合える活動の場づくりと評価の工夫を行う （「かがやきの木」の全校への紹介・表彰の場・縦割り班掃除等の取組） ・健康チャレンジの取組を継続し、日々の生活習慣について、目的意識をもたせ、個に応じた具体的な方法を指導する	・自分は、友達のよさやがんばっているところを伝えている。 児童評価【校区共通項目】 ・「よりよい学級学校にしようとしている」児童評価 ・規則正しい生活・食事・衛生についての保護者の肯定的評価 ・「身の回りの整理整頓に気を付けている」児童評価	92%	100%	92%			
				96%	98%	92%			
(修正)				73%	75%	73%			
③【開かれた学校】 地域・保護者との連携を深め、信頼される学校づくりを進める	◎地域学校協働本部との連携を核として、児童と地域とのつながりが深まる教育活動を推進する 学校からの積極的な情報発信を行い、児童に関わる課題を保護者と共有し課題解決に努める	・地域と学校の協働により、児童の資質・能力・態度を育成する ・児童の学習面や生徒指導上の課題に対して、迅速に対応する	・「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」教師評価 ・「学校は我が子の相談に丁寧に応じてくれる」保護者評価 ・「児童の課題に対し迅速に対応し、教職員間で連携して取り組んだ」教師評価	—	90%	63%			
				96%	90%	100%			
(修正)				—	100%	100%			

第1回関係者評価委員会

結果と課題の分析・改善方法等

① ・ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境や授業改善への取組が意識化されてきた。特にICTの活用が進んだ。（電子黒板の昨年度年間稼働率47.7%→今年度8月末までの稼働率54.6%）配分された予算を算数のデジタル教科書の全学年分、導入に充てたことも一因として考えられる。ユニバーサルデザインの研修や情報交換を今後も継続して行い、児童の学びにつなげていく。 ・「理由をつけて考えを表現すること」については、目標値をわずかな	② ・コロナ禍での家庭生活の変化により、保護者が児童の生活実態を見る機会が増えたため、全体的に肯定的評価が下がっていると思われる。とりわけ、「チャレンジアウトメディア」の取組は、外出が難しい分、児童の目標自体も低く、達成率も低かった。今後は、学校で日々、短時間でできることを指導し、継続して意識づけていく（姿勢等）。「チャレンジアウトメディア」については、個人内で目標を高	③ ・「地域人材とのつながりの拡大と深化」については、コロナ禍の中で進めることができていない。この現状において、地域の方々と何ができるのか、どうすればできるのかについて今後の計画の練り直しが必要である。 ・保護者からの相談に対する職員の対応については高い評価を得た。今後も保護者の思いや願いに寄り添った丁寧な対応をしていくとともに、学校側からの発信も増やしていきたい。
---	--	---

がら下回っている。この原因は、コロナ禍においての学習形態として、1学期にペアやグループでの話し合い活動を控えていた影響が考えられる。2学期以降、徐々に話し合い活動を取り入れた学習を展開してきている。今後の授業において、「自分の考えを説明すること」をめあての中に明確に示すなどして、児童自身が「考えを表現すること」を意識できるようにして授業を展開していく。	めていくよう指導する。また、自分自身の生活リズムについて振り返る機会を設ける。 整理整頓については、下校前などを利用して、整理整頓する時間を確保する。学年実態に応じて、点検・評価を行う。「健康チャレンジ」に整理整頓の項目を取り入れ、家庭でも意識して取り組むことができるようにする。	児童の課題に対して、チームとして対応していくことができています。職員が孤立してしまうことや、誤った対応に陥ってしまうことを防ぐためにも、すぐに報告、すぐに相談できている現状を維持していく。そのことが職員一人一人の健康的な働き方につながり、児童の健全な成長につながる。
--	---	---

【全体】 ◆各家庭での「基本的生活習慣」の評価が低い、効果的な対処方法はないでしょうか。・家庭での習慣により学校生活に支障をきたしたり、集団への悪影響や本人の荒れがあったりするのなら、家庭との連携が必要になる。・本人との話し合いで改善が見られない場合、家庭との連携を進めたい。一緒に考えていく姿勢が、保護者の心を開く場合がある。支援の仕方を進める手立てが見えてくることもある。・保育園の場合、保護者と日々連携できるメリットとデメリットがある。ただ、言うタイミングは今なのかどうか、保護者と教諭の思いがすれ違わないよう、折り寄せる必要がある。・保護者と先生との信頼関係で言えば、先生が保護者と話し合う以前に、子供が自宅で楽しそうに学校の様子を話せば、保護者も信頼してくる。信頼すると先生に言われたことに心を開く。先生の、その子を見る目が変わると、本人も変わる。周りの子供の接し方も変わる。よくしゃべるときは元気だと思うが、しゃべらないときは気になる。不安は態度に出ると思う。・そう言う意味では、1年単位で学級担任が代わるのは、いいのではないかな。専科教員が別の目で見るとも意義がある。小学校では、1年～6年までであるので、先生によって担当学年の向き不向きはある。参観させていただくと、高学年は自分の考えを出し合ういい授業をしていた。子供が変わってきている印象がある。・10人～20人規模の学級の授業はいいと思う。積み重ねると変わってくると思う。その一方で、学力格差も見えた。・昨年度、ご指摘いただいた「書く」活動を取り入れた学習は効果を生んできている。継続したい。・「書く」活動では、低学年には抵抗があると思うので、話し合いを中心に据える方がいいのではないかな。学年が上がるにつれ、恥ずかしさも増すので、先に書く活動を取り入れ、まとめておき、アウトプットできるとよいのではないかな。・アンケート結果を見ると、生活習慣でも児童と保護者の捉えに差があるのが気にはなる。例えば、中学校では家庭でのオンラインゲームが課題になっているが、小学校の実態はどうだろう。のめり込む状況が見えていないだろうか。・そういう児童もいるので、気がかりだ。そのため、昨年度、講師を招いて、PCTの講演会も開催してきた。・コミュニティのことというと、地域に関心をもつ児童が多いのは心強い。中高へのアプローチが不足気味なので、考えていきたい。・まちづくりチャレンジ事業を展開するので、中学校にも情報を提供し、中学生の力を借りたい。例えば、「どろんこバレー」だが、大人に混じって大会の手伝いをしてほしい。また、中学生チームを作って参加してほしい。・中学生も縦割り掃除や挨拶運動を通じて、変わってきつつある。物おじしない子に変わりつつあるように思う。・児童アンケートの取り方として、掃除や整理整頓の担当を決めて、付けさせてみると見え方も変わるのではないかな。

【修正】	【修正】	【修正】
------	------	------

第2回(中間)関係者評価委員会

結果と課題の分析・改善方法等

①	②	*関係者による協議を基に、部会で修正点があれば、記入をお願いします。スペースは、随時、必要に応じて引き伸ばしてください。 ※：～10/30（金）まで
全体		

第3回(最終)関係者評価委員会

学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

①	②	③
全体		

第3回(最終)関係者評価委員会を受けて最終報告